釜ヶ崎夜間学校の新しい出発にあたって

『仮称』で、はや2年

釜ヶ崎夜間学校は、一九八〇年五月に仮称という形容句を頭に冠して第一回を始めて以来、はや三年目に入ろうとしています。この「仮称」という言葉を付与したなかには、次のように大きな意味があったと自負しています。この夜間学校は、学校と名づけたものの他のいわゆる学校とは違うんだ、ここには数えてくれる先生もいないし、教えてもらう生徒もいない、みんなが対等の立場で我々日雇労働者に関するいろんな問題を出し合い、みんなでともに考え、学び、解決の道をさぐっていこう、これこそが真の学校なんだと。このような意味付与がその都度の集まりにどれだけ実を結び得たかは、深く反省しなければなりませんが、夜間学校の名もいちおう定着しだした今、四月からの新たな出発にあたり、いつまでも「仮称」はなかろうと、先の自負心は変ることなく、「仮称」を取っぱらうことになりました。

目ざすものは…

釜ヶ崎夜間学校は当初から、その目的・方向を次のように考えています。私たちが釜ヶ崎で生活していくなかで、あるいは日雇労働者として働くなかで、誰もがいろんな問題にぶつかり、いろんなことを考えながら日々過しています。

…なんでこんな朝早くから探さんと仕事にありつけんのやろか。なんでこう長時間拘束されなあかんのやろか。なんでデスラはこうも安いんやろか。現場でケガでもしたらどないしようか。病気になったら、いやもう病気やけど金もないし。このまま年とったらどないなるんやろか等々。他にももっと個人の、一人だけの問題のように見えて、実はみんなの問題であるというようなことが私たちには多くあります。このような問題を出来るかぎり具体的に解決していくために、そのことの意味しているものは何なのか、根っこにあるもの・原因は何なのか、私たちの真にいい方向とはどんなものか、どうすれば少しでも解決に近づけるのかを、みんなの経験と知識とを持ち寄って、ともに学び考えていこう。そのための自由に話し合える場が、この釜ヶ崎夜間学校であると考えています。

新たな出発に向けて

この2年間、労働・医療・歴史を内容の大きな柱として、前回の夜間学校で計七二回の集まりを持ちました。しかし、正直いって、内容の盛り上がりや発展・継続性に欠けるところがありました。そこで、多くの仲間の意見を参考にしながら、四月一日から三ヶ月間を第一期として、一つのテーマを十分に深めるために一ヶ月かけて話し合うことにしました。この新たな出発にあたり、今まで参加したことのない人も気軽に顔を出して下さい。一人でも多くの仲間の参加を期待しています。

一九八二年三月三十一日

釜ヶ崎 夜間学校

西成区萩之茶屋二ー八ー十八
喜望の家内
でんわ 六四七ー三九四六